

伊豆七島、新島村の出川村長は落ち着いた雰囲気を持つた知識人です。出川氏の作詞した「新島の海」という曲を鳥羽一郎は自分の持ち歌として歌っています。出川村長の書いた「輝かしい海女たち」という論文を読みました。石鏡から海女として働くため新島の若郷地区に出かけて行って、ついにそこに嫁いで移住した女性たちのことが書かれています。

『若郷の人々はとても親切で優しくった。びっくりしたのは石鏡の男たちは海に潜らないのに若郷では男がテングサを採りに潜り、ずいぶん風変わりな島だと思った。来年も若郷に行きたいという願いに変わり、やがてそれが積み重なって若郷の人になつてしまった。』



横断幕を持って出迎えてくれた新島のみなさん

ました。わたしもびっくりしました。ほかの多くの市長や村長のみなさんも、いったい何が起こったのやらわからないということ、とても驚いていました。彼女たちは、わざわざ、仕事を休んで出迎えてくれました。

『世界人権宣言』の第1条で、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」と規定されています。ある小説の記述で、「この世にあるものは、すべて空から見れば、虫も人も草木も石ころもみな同じであるというのが『天の理』であり、人の身分や優劣、物事の考え方の違い、見た目の違いといったものは、『人間の理』である」とありました。

わたしたちは、無意識のうちには差別をしてしまう心があります。自らの差別意識を自覚し、偏見や差別意識を持たないようにすることはできる

新しい土地に根を生やし、力強く生きていく鳥羽の人々のドラマを見ました。

世界各国、さまざまな報道で、日本人が規律正しく順番を待ったり、食事や子供服の支給があった時、必要以上に欲しがらず後の人のことを考えるなど、人の為に自分を律する姿が世界中から賞賛されています。今回の震災を経験されたすべての人たちが、他人への思いやりや、自分たちが今できる事を助け合いながら対処する姿には心を打たれる思いがします。

木田市長の



ど〜んと

真珠のように輝くまちづくりのために

コミュニケーション

vol.68

新島の海

人間の理

人権文化の花を咲かせよう

Vol.108

はです。性が違う、国籍が違、障がいがある、皮膚の色が違うといった「違い」をそれぞれの個性として認め合い、互いを尊重するものの方、考え方をすることが大切なのです。

今回、東日本大震災が発生し、多くのかたが今も困難な避難生活を送られています。被災された人たちは、老若男女、障がいを持つ人など、すべての人たちが支え合い分け合い生活を送られています。

世界各国、さまざまな報道で、日本人が規律正しく順番を待ったり、食事や子供服の支給があった時、必要以上に欲しがらず後の人のことを考えるなど、人の為に自分を律する姿が世界中から賞賛されています。今回の震災を経験されたすべての人たちが、他人への思いやりや、自分たちが今できる事を助け合いながら対処する姿には心を打たれる思いがします。

今こそ「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」という原点に立ち返り人権を考えてみたいと思います。